

世界でもまれな二百六十年にも及ぶ平和な時代を築いた徳川家康。生涯の多くの時間を静岡県で過ごした家康公の足跡は県内にいたるところに残っている。家康公から学ぼう、を合言葉にした家康公顕彰作文コンクールは今年も実施され、児童・生徒から多くの作品が寄せられた。表彰式は11月27日に行われた。特に優秀な成績を取めた4作品を紹介する。 <企画・制作/静岡新聞社地域ビジネス推進局>

徳川賞	東井上遥華 (静岡高松中3年)	静岡商工会議所連合会会長賞	三善優花 (沼津小6年)
家康賞	菱田琳斗 (静岡大付属静岡小1年)	静岡商工会議所頭賞	大津亜果莉 (静岡浦原中3年)
家康賞	柿崎寛人 (静岡東豊田中3年)	浜松商工会議所頭賞	田中花笑 (浜松北浜南小6年)
徳川みらい学会賞	原 彪太郎 (聖隷クリストファー小5年)	静岡新聞社賞	杉田虎次朗 (静岡大付属浜松小3年)
静岡県知事賞	堀川莉子 (星陵中1年)	SBS静岡放送賞	森田悠愛 (浜松北浜南小6年)
静岡県教育委員会教育長賞	寺田和音 (浜松開成中2年)	中日新聞東海本社賞	尾崎 遼斗 (袋井南小5年)
静岡市長賞	齊藤のどか (静岡大谷小6年)	日本放送協会静岡放送局長賞	鈴木 梨愛 (富士中1年)
浜松市長賞	山内 愛結 (浜松雄踏中1年)	テレビ静岡賞	奥田 葵衣 (沼津中3年)
静岡市教育委員会教育長賞	佐野 巧真 (静岡電南小5年)	静岡第一テレビ賞	高林 蓮 (浜松北浜南小6年)
浜松市教育委員会教育長賞	井上 颯人 (浜松北浜南小6年)	静岡朝日テレビ賞	森園 和杜 (富士吉原小4年)
静岡県私学協会賞	河村 羽乃 (西通女子学園中3年)	学 校 賞	浜松北浜南小

講評

時代に敏感な子どもたち



審査員長 中村羊一郎氏  
(静岡産業大学総合研究所客員研究員)

幼少時から静岡県と深い縁で結ばれていた徳川家康公は、その生涯をとおして、現代の小中学生に何を語り掛けているだろうか。ゆかりの史跡を訪れたり、関連する本を読んだりして、自分なりの家康公像を書いてほしい。こんな呼びかけをしてきた家康公作文コンクールは、7回目となり、今年は327点の作品が寄せられた。

ここに掲載した4点は、いずれも思うところを自らの言葉で語ったすぐれた作品である。全体として現地に赴いての研究よりも、読書などから学んだ内容で、コロナ禍のせいだろうか。そんななかで食品ロスや健康という時代のキーワードに触れたものが目についた。子どもたちは、現在の社会や国際情勢にも大きな関心を寄せている。

次回以降も、あえて原稿用紙での提出を求めます。手書きの一文一文字に、家康公へのあつい思いを込めてください。

徳川賞

「四百年前から学ぶ」



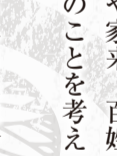
静岡市立高松中学校3年 東井上 遥華

初めて食べた時は衝撃だった。ある日の給食の時間、おなかを空かせた私はメニュー表を見た。そこには、ご飯や牛乳、いつもの献立に並んで、異彩を放つ「黒はんぺんのフライ」の文字が。出身が静岡でない私は、「黒？はんぺんは白だよな」と脳内に疑問があふれかえった。「いただきます」。その声とともに私は一口頬張った。驚きだった。はんぺんなのに見た目は半円で、色は灰色をしている。さらに、あのふわりとした食感でなく弾力があり少し重いちくわのような噛み応えもある。

「お、おいしい...」  
初めて食べる黒はんぺんは私に大きな感動を与えた。  
お昼の校内放送が始まった。毎日その日の給食の豆知識を提案してくれるのだ。その日の内容はやはり黒はんぺん。

徳川みらい学会賞

「家康と浜松とぼく」



聖隷クリストファー小学校5年 原 彪太郎

その裏には自分自身の健康について考える一面もあれば、「主が進んで儉約すれば、いくらか戦費に回せるし、百姓を労(ねぎらう)うことも可能だろう」という庶民を思う心も持っていたようだ。それを聞き、家康が天下統一する実力の持ち主だということを感じた。

「一日当たり一人お茶碗一杯分の食べられる食べ物捨てている。これは最近よく聞く言葉ではないだろうか。現在の日本は食べ物がたくさんある。が、これは無限にはない。余ったら捨てるという間違った考えを捨て、家康のように無駄なく、おいしく食べる工夫をすべきだ。食品ロス解決のためにも私たち一人一人が考えて実践すべきではないだろうか。」

第7回徳川記念財団コンクール in 静岡 徳川家康公顕彰作文コンクール

家康さんから学んだ 優秀作品掲載

家康賞

「ぼくもいつしよ、いえやすさん」



静岡大学教育学部附属静岡小学校1年 菱田 琳斗

「ぼくのかぶとはなんではっばのつ...」  
「とく川いやすのかぶとだからだよ。せつかくしおかだからそれにしたの」  
「ぼくの五月人ぎょうは、いえやすさんのかぶとだった。しずおかだからって？」

「今、家康公の生き方から学ぶこと」  
静岡市立東豊田中学校3年 柿崎 寛人

「健康が一番」と思ったこの瞬間も、私はまた家康公のことを思った。人一倍健康に気を遣っていたこと、有名な家康公。粗食を常とし、一汁一菜主義だった。また、食事内容もさることながら、駿府御薬園という薬草園で、自らの体調に合わせて薬草を栽培し、それらを調合して飲んでいたので。家康公が生きていた時代に、こんなにも自分で健康管理をしていた武將が、他にいたのだろうか。また、近年の緑茶ブームで、清水港からの緑茶輸出高が増えているという記事を新聞で読んだ。家康公はその当時からお茶も愛飲していた。お茶の効能が分かるほどか昔から、家康公は緑茶が健康にいいことも分かっていたのだろうか。「飲んでからわかる」と家康公の音が聞こえてきそう。私は、静岡のお茶が大好きで、毎日飲んでいる。これから家康公を見習い、自分の健康は自分で守れるよう、運動や食事、睡眠に気を配って生活したいと思う。



「家康公ならこの試練をどう乗り切るだろうか」と思った。家康公は、幼少期から人質としての生活を余儀なくされていた。当時は、北条氏や武田氏の人質から冷たい仕打ちを受けていたという話も聞かれる大切な時期と聞いたり、思うようにいかずストレスを抱えて生活していたりしたかもしれ

「健康が、とても不安になった。改めて「健康が一番」と思ったこの瞬間も、私はまた家康公のことを思った。人一倍健康に気を遣っていたこと、有名な家康公。粗食を常とし、一汁一菜主義だった。また、食事内容もさることながら、駿府御薬園という薬草園で、自らの体調に合わせて薬草を栽培し、それらを調合して飲んでいたので。家康公が生きていた時代に、こんなにも自分で健康管理をしていた武將が、他にいたのだろうか。また、近年の緑茶ブームで、清水港からの緑茶輸出高が増えているという記事を新聞で読んだ。家康公はその当時からお茶も愛飲していた。お茶の効能が分かるほどか昔から、家康公は緑茶が健康にいいことも分かっていたのだろうか。「飲んでからわかる」と家康公の音が聞こえてきそう。私は、静岡のお茶が大好きで、毎日飲んでいる。これから家康公を見習い、自分の健康は自分で守れるよう、運動や食事、睡眠に気を配って生活したいと思う。」